



日本コムシス株式会社

●わが社のCSR活動

CSR

日本コムシスのCSR活動

日本コムシス株式会社



1. はじめに

日本コムシスでは、情報化社会において、安心・安全・便利なネットワーク社会を構築し社会の隅々まで「当たり前」につながるネットワークを「下支えする」ことが役割であり、企業の社会的責任と考えています。「通信ネットワークによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献」することをCSRの理念、「本業を通じた社会貢献」をCSR活動の基本と考え、CSR活動を推進しています。また、より広いインフラ整備を担うことから環境への配慮を行い、地球環境と共存できる情報化社会づくりに貢献し、社会の一員として、お客様、地域社会、株主の皆さま、社員など、多くのステークホルダーの皆さまから、信頼され、愛される企業を目指し、また持続的な成長を遂げるため、CSR活動に取り組んでいます。

ここでは、コムシスグループのCSRの考え方を説明した後に、コムシスグループのCSR重要課題である、安全・品質の追求、品質向上と環境への配慮、人財に対しての取組み3点についての日本コムシスの取組みをご紹介します。

2. CSRの考え方

(1) 価値創造プロセス

コムシスグループにとって、CSR活動は価値創造を支える重要な要素です。「人財」を中核に「安心・安全の追求」「品質向上と環境への配慮」「事業を通じた社会貢献」を強く意識した事業活動を行い、これらを支える経営基盤であるガバナンス強化に努めています。

また、経営理念を掲げ所とし、中期ビジョンとして掲げる「コムシスビジョンNEXT STAGE 2023」の実現を目指します。4つの道しるべを設けることで、それぞれの目標に

対し短期的なPDCAを回し、中期ビジョン実現の後押しをしています(図1)。

(2) CSR推進体制

コムシスホールディングスにCSR推進室を設け、グループのCSR活動を統括・管理しています。各統括事業会社の方向性や浸透施策を横断的に把握、共有することで、グループ全体に具体的な取組みを展開し、グループ一丸となったCSR活動を推進しています。

またコムシスホールディングス社長を委員長とし、コムシスホールディングスおよび日本コムシスをはじめとする各統括事業会社から選出された委員(主に取締役・理事)から構成される「CSR委員会」を設置し、グループ全体のCSRマネジメントの連携を図っています。コムシスグループ各社では、それぞれのCSR推進体制を整えており、各社のCSR推進を行う部署が各社の事業形態に見合ったやり方で取り組んでいます。日本コムシスではコーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメント、情報セキュリティ、情報開示、安全品質、環境配慮、環境保全、職場環境、社会貢献などをテーマとし、それぞれのCSRの取組みについて、「経営ガバナンス部会」、「環境部会」、「職場・社会貢献部会」が中心となり、積極的に取組みを進めています。

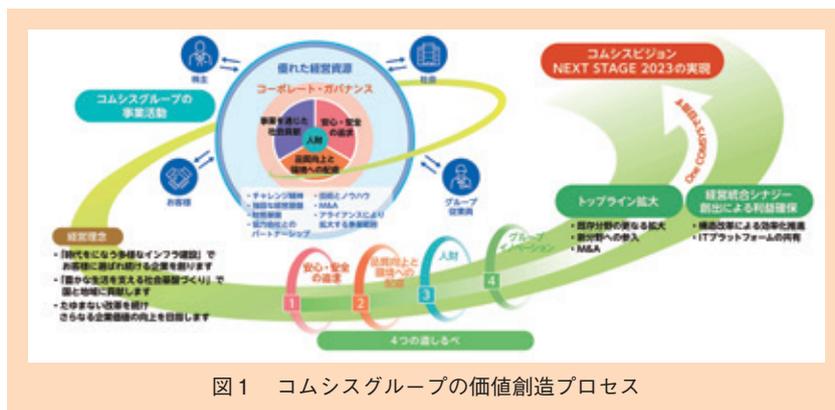


図1 コムシスグループの価値創造プロセス

(3) CSR重要課題

コムシスグループのCSRの理念である「通信ネットワークによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献」を実現するため、2013年にコムシスグループのCSR重要課題を選定しました。4つの重要課題に沿ったCSR目標を設定し、達成に向けて活動を推進しています(図2)。

3. 安全・安心の追求

「安心・安全な労働環境・業務体制」が守られなければ、安定した事業活動は維持できません。日本コムシスでは、社員はもとより、協力会社を含めた現場作業員が労働安全衛生や交通安全への意識を高められるよう、研修や教育を実施し、「現場の視点」を尊重しながら労働安全衛生の確保に取り組んでいます。

(1) 労働安全衛生マネジメントシステム

労働安全衛生マネジメントシステムに準拠し、法令ならびに社内規程を守り、全社員の協力の下、労働災害の防止、社員の健康増進および快適な職場環境を整備し、継続的に安全衛生の確保に努めています。また、COHSMSの認証取得や、安全憲章や安全方針の策定に加えて、毎年、「事故撲滅」を最重要経営課題として掲げ、現場の工事などを担当する協力会社とともに、グループ全社を挙げて事故および労働災害の防止に取り組んでいます。

(2) 安全巡視などの実施

人身・設備事故撲滅に向けて各種取組みを展開しています。特にリスクの高い高所作業車の使用方法や作業内容についての事故防止に向け、資格認定者が高所作業車を運転しているか、安全に作業できているかといった点を安全パトロール者が確認

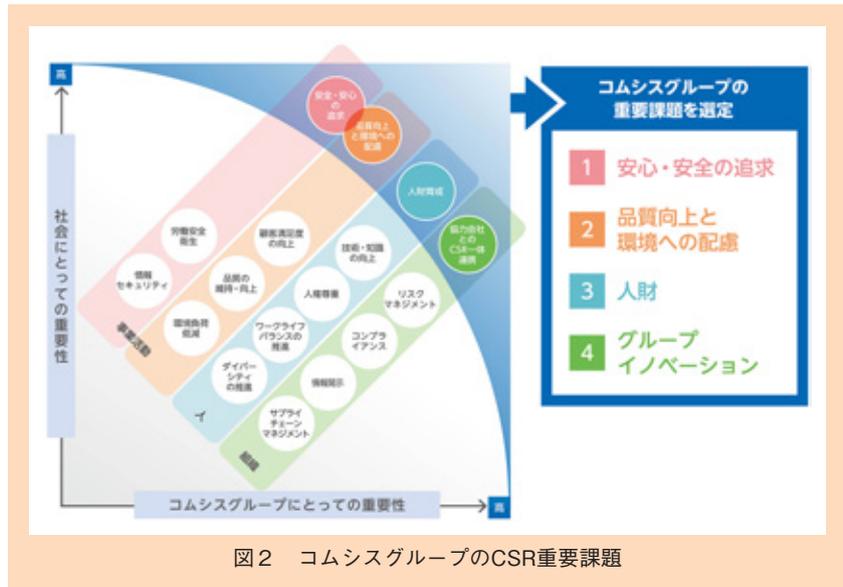


図2 コムシスグループのCSR重要課題



写真1 女性用ヘルメット



写真2 女性用作業服

することで、作業を行う社員1人ひとりの安全に対する意識の向上を図っています。

現場に所属している全作業員に「事故撲滅のポイント」と「安全の鉄則」を記載したカードを配布し、携帯を義務付けています。また、社長をはじめとする役員による現場との対話を重視した安全パトロールを定期的実施しており、安全意識の徹底に努めています。

(3) 女性作業服の導入

女性活躍推進プロジェクトの一環として、女性用の作業服を導入しました。これまで、作業服は女性も男性用サイズを着用していましたが、男性用は一番小さいサイズでも女性には大きいこともあり、作業のしづらさや動きにくさがありました。ま

た、ヘルメットについても、これまでの男女兼用サイズでは頭にフィットせず、作業中にずれることから安全性に懸念がありました。こうした背景から、実際に現場で働く女性社員の意見を参考に検討を進め、2018年11月より女性用作業服の注文を開始、順次着用を開始しています(写真1・2)。

4. 品質向上と環境への配慮

「社会基盤を支えるコムシスブランドの品質」を維持・向上させるため、現場や経営層の声はもとより、お客様視点を踏まえたサービス・品質の向上・改善活動に向け、技術開発に励んでいます。また、環境負荷低減を目指した事業活動、社会貢献活動に取り組み、地球環境課題の解



写真3 NTTモバイル工事での施工ITプラットフォーム (Darwin Mobile) を使用している現場の様子

決に向けた貢献を推進しています。

(1) 品質向上の取組み

あらゆるところでICT化が進んでいる社会において、製品・サービスの品質向上は、人々の安心で安全な生活を支えることに直結すると強く認識し、品質向上を目的とした活動を推進しています。具体的には、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）、改善提案などの現場を主体として進める改善活動を行い、活動による有益な成果や情報は改善発表会等を通じ共有する仕組みを構築しています。協力会社とともにグループ一丸となって、日々の活動における絶え間ない改善を遂行し、業務の効率化・標準化、現場力の向上およびお客様からのさらなる信頼性向上を目指しています。

(2) スマートフォンやタブレット端末を活用した作業工程の管理
通信建設工事の効率性、安全性お

よび品質の向上を図るために、スマートフォンやタブレット端末を活用したワークフロー（作業工程）の統一と現場作業のIT化のための「施工ITプラットフォーム」を構築しています（写真3）。現場の作業員が、タブレット端末上のワークフローに沿って作業を進めていくと、それが本社のシステムにも連動し、遠隔地にいながらも、作業管理者がリアルタイムで作業の点検・承認ができる仕組みです。端末の利用により、即座にビジュアルで手順を理解することができるため、危険を伴う作業現場で膨大な紙の手順書を確認する必要がなくなり、作業効率および安全性が格段に向上しています。受注から納品のプロセスにおいても、ITによる管理システムを運用することによって、効率のアップを実践しています。

(3) 低公害車の導入

工事車両として環境負荷の少ないハイブリッド車や低燃費車、電気自動車の導入を進めています。2015年には世田谷事業所に、事業所屋上の太陽光発電を利用した、電気を動

力源とする電気自動車を導入しました（図3・写真4）。自家発電によるクリーンなエネルギーは工事の際には電源としても役立てられ、エンジン発電機による騒音問題の解消に加え、非常時には事業所や被災地の非常用電源としても利用が可能です。世田谷事業所以外に3カ所の事業所でも電気自動車を導入しており、計5台が稼働しています。

(4) 生物多様性の保全活動

公益社団法人埼玉県農林公社および埼玉県と「埼玉県森林づくり協定」を締結し「コムシスの森」のサポーターとして、森林保全活動に取り組んでいます（写真5）。また、海岸清掃活動を全国で実施（写真6）。こうした活動を通じて生態系の多様性を理解し、毎日の業務を行うときも環境負荷の低減に努める意識を醸成しています。

(5) バイオマス発電事業

日本コムシスグループは、鹿児島県枕崎市において、国産森林資源を燃料とするバイオマス発電事業を2017年にスタートしました。これまでの発電接続技術や発電プラントを構築する技術を生かした取組みで、2020年の運用開始を予定しており、周辺地域における雇用創出にも寄与します。鹿児島県内で利用されていない樹皮を中心に利用し、燃料以外にも建築資材や枕崎市の基幹産業である鯉節製造に必要な薪としても活用し、安定供給に努めます。

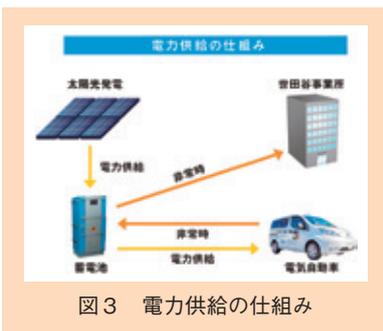


図3 電力供給の仕組み



写真4 電気自動車

5. 人財

「人こそ財産」という考え方に基づき、ワークライフバランスやダイバーシティの推進に努めています。また、社員のモチベーション向上、パフォーマンスの発揮を促す働きやすい職場づくりに努めています。そして技術・知識の向上など人材育成



写真5 「コムシスの森」 森林サポーター



写真6 海岸清掃の様子

を通じ、高品質なサービスの維持・強化を目指しています。

(1) ワークスタイルイノベーション

日本コムシスでは、ワークスタイルイノベーションを推進し、介護や育児のために働きたくても働くことができなかつた社員が活躍できる環境の整備に取り組んでいます。業務の生産性向上と多様な人材の確保の2つを軸に進めており、フレックスタイムやテレワークの運用をはじめとする施策を通じて、多様な働き方を創出するとともに、社員の意識改革を図っています。

(2) 女性活躍推進法への対応

「女性活躍推進法」に基づいて課題に対する目標を設定し、取組内容と実施時期を定めています。第1期は2016年より3年の計画期間で、新卒採用人数に占める女性割合、管理職における女性比率の数値目標を設定、取組みを行いました。第2期は2019年4月より3年の計画期間で新たな目標を設定し、取組みを実施しています。また女性の活躍推進の取組みについて、2018年には「あいち女性輝きカンパニー」に認定されました(写真7)。

(3) メンタルヘルスなど社員の健康サポートを強化

企業の健全な運営には、社員1人ひとりの健康増進が必要不可欠であ

るとの考えから、毎年メンタルヘルス研修を行い、さまざまな健康サポートを行っています。社員の健康的な生活をサポートするために、カウンセリングサービスも導入しています。

(4) 長時間労働解消の取組み

長時間労働の解消の取組みとして、定時退社日の設定や一斉休暇取得、ブリッジホリデイなどを設けるとともに、有給以外に特別休暇を設定し、年末年始などの長期休暇の際に社員がしっかりと休めるよう環境整備を行っています。また、産業医による面談、指導、勤務管理者による深夜・休日勤務の管理状況の確認なども実施しています。

(5) 研修プログラムの充実

階層別研修や新任管理職研修など、成果・業績の向上につながる各種の教育・研修を行い、すべての社員が希望通りにキャリアアップできる体制を整えています。技術研修も定期的実施し、提供するサービスの品質と安全性の向上を確実にものとしています。

6. おわりに

今回は日本コムシスのCSRの考え方と活動の一部を紹介しました。

世の中を支える安心・安全・便利なネットワークの構築、ならびにインフラの整備は社会からの要請が強



写真7 あいち女性輝きカンパニー認定書

く、さまざまな課題解決に大きく貢献する事業です。当社のCSR活動の1つひとつが、2015年、国連総会で採択された「持続可能な開発のための目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」につながっていくと考えています。すべての人々にとってよりよい世界を作るため、グループ一丸となって、世の中の課題解決や人と社会がより豊かにつながる社会づくりに注力し、貢献してまいります。